

CWA NEWS



ウィスコンシン州友好使節団来葉 —ウェルカムパーティに90名参加—



佐久間豊CWA副会長 宮内好雄教育長 シャロン・デュツカ団長

ウィスコンシン州友好使節団15名が9月22日（土）来葉し、翌23日の夕方、野田市においてウェルカムパーティが開催されました。会場には野田市関係者、同市国際交流協会、一昨年の使節団員である伝統民族芸能団体、ホストファミリー、県、CWA関係者ら約90名が集まりました。

初めに、千葉ウィスコンシン協会副会長である千葉県文化振興財団の佐久間豊理事長から、続いて、野田市の宮内好雄教育長から、使節団の訪問を心から歓迎する旨の挨拶がありました。

これを受け、シャロン・デュツカウィスコンシン州友好使節団団長から、盛大な歓迎への御礼と今後も変わらぬ交流への思いについてスピーチがありました。

その後、茂木友三郎千葉ウィスコンシン協会会長と森田健作千葉県知事からの歓迎メッセージが披露され、森本耕司野田市ウィスコンシン州交流事業実行委員長による乾杯の後、歓談となりました。

各テーブルではウィスコンシン州友好使節団員を囲んでの歓談や写真撮影、そしてキッコーマン（株）からご提供いただいたお酒やソフトドリンクを飲みながら美味しい料理に舌鼓。使節団員の中には「サケ!」と日本酒を積極的にオーダーする人や、一所懸命にお箸を使って料理を食べている人もいて、日本のことをもっと知りたい、経験したいという姿勢が垣間見えました。

その後、CWA運営委員の浅沼明夫さん（千葉県民謡協会）のグループが、花笠音頭などの民謡3曲と津軽三味線の共演を披露した後、ウィスコンシン州友好使節団から野田市を始めとする受入側にプレゼントが贈られると、会場が一気に盛り上がりました。



千葉県民謡協会のメンバーが民謡などを披露



10品目以上の豪華メニュー



使節団員全員で記念撮影（もの知りしょうゆ館）

ウェルカムパーティにはホストファミリーの皆様も多数参加されました。子供の英語学習が動機で申し込まれたご家族もいらして、比較的若いご家族が多かったように思いました。

終了時刻が過ぎてもお互いの会話が尽きず、惜しまれつつ閉会となりました。

翌24日（月）、ウィスコンシン州友好使節団員全員が揃い野田市のキッコーマン工場を訪問しました。その後27日（木）まで、各グループに分かれて交流活動等を展開しました。

文化・芸術グループ

総勢10名の文化・芸術グループは、9月24日(月)から27日(木)にかけて野田市の4小中学校、成田市の高校でポメラニアンダンスを披露しました。10名の内訳はアコーディオン及びバイオリン奏者の女性各1名と男女各4名のダンサーです。

ポメラニアンダンスはドイツのポメラニア地方からウィスコンシン州に移住した人達による民族ダンスで、素朴さと力強さがあります。当時の農業や漁業に従事した人々の民族衣装をまとったダンサーが、掛け声とともにポルカのリズムによって踊り始めると、その躍動感ある動きに、児童、生徒たちは魅了されていました。

また、ストーリー性のあるダンスでは、そのコミカルな仕草に会場は大いに盛り上がり、約30分間の演技が終わるとダンサーの顔は汗で光っていました。

一方、受入側の各学校では合唱、楽器演奏、ダンスなど様々な歓迎プログラムが用意されており、特に野田市の各小中学校では獅子舞、盆踊り、和太鼓などの郷土芸能が披露され、野田市における交流事業が地域と一体となった取組であることが伺われました。

また、今回の交流事業では、ホストファミリーはもちろん、通訳などで多くのボランティアの協力がありました。一昨年度の千葉県友好使節団員としてウィスコンシン州を訪問したバツパカ獅子舞保存会と中里喜楽会は児童、生徒の公演の指導をされていましたし、見学先の関宿城博物館では関宿城大名行列保存会の協力で、グループ全員が大名行列の先頭に立つ槍持ち奴の衣装をまとい記念撮影をしました。

最後に、ダンスへの小中学生の感想が、「日本の踊りと違ってすごかった」、「面白かった」、「激しかった」であったのに対し、高校生は「可愛かった」と言っていたのが印象的でした。

また、団員からは、「この1週間素晴らしい人たちと出会えてとてもいい経験だった」と感謝の言葉をいただきました。



躍動感あふれるダンスに魅了された(川間中学校)



素朴な中にも激しいダンスにビックリ(関宿小学校)



女性に叩かれるシーンに思わず笑い(関宿中学校)



ダンサーの熱演に手を振って声援(清水台小学校)



グループ全員が槍持ち奴(関宿城博物館)



女性が宙に舞うシーンに大歓声(県立成田国際高校)

団員

アコーディオン奏者	Liesl Thomas
グループリーダー	
バイオリン奏者	Mindy Elizabeth Michalski
ポメラニアンダンサー	Jamie Heberer Courtney Herrick Amy Noble Lauren E. Jahn Tyler Ayer David J. Pipkorn Eric Radue Jason James Gehrke

行程

9/24	キッコーマン工場 川間中学校 (野田市)
9/25	関宿小学校 関宿中学校 関宿城博物館 (野田市)
9/26	旧茂木佐邸(市民会館) 野田市郷土博物館 上花輪歴史館 清水台小学校 (野田市)
9/27	房総のむら(栄町) 成田山 県立成田国際高校 (成田市)

女性のつばさグループ

9月24日、キッコーマンの視察を終えた女性グループ3人は、千葉に移動しポートタワーの展望台から東京湾や千葉市内を望みました。翌日から本格的な視察・交流プログラムの始まりです。

25日、午前中に九十九里町の菅原ガラスを視察した後、ご夫婦が共同経営している山武市のソムリエファームを訪問しました。妻の渡辺和代さんが野菜ソムリエの資格を持ち、自家栽培野菜のピザづくり体験もできるアイデアいっぱいの農家です。3.11の津波被害を受けたにも関わらず、すぐに復興への第一歩を踏み出すなど、明るく元気な和代さんの話を聴きながら、団員は優しい味の手作りピザを味わいました。

午後の城西国際大学では、「女性のつばさの皆様、ようこそ」の大きな横断幕を掲げての、先生方や学生達のお出迎えに一行は大感激。女性学の研究者でもある水田宗子理事長との意見交換、美術館や図書館等の見学、茶道や剣道を学ぶ学生との交流など、時間は瞬く間に過ぎて行きました。

26日、茂原の瓢箪工芸家の風戸家を訪問。100年以上続く民家の敷地には、収穫間近の瓢箪がぶら下がり、団員は作品の創作過程だけでなく民家の風情や部屋の調度にも興味津々。特に瓢箪アーティストのB・ロスウェルさんの感動はひとしおだったようです。

27日、つばさの会主催の意見交換会です。女性の海外派遣事業で過去にウイスコンシン州を訪問した女性たちと団員の交歓交流会は、手料理を囲んで日米の食物の比較や食に関する考え方、レシピなどで盛り上がりました。特にイベントプランナーのB・ベイカーさんは手際がよく、盛り付けにも拘るなど、交流会のムードメーカーとして一役買っていました。



被災地の映像に見入る参加者



城西国際大学の学生さん達と



瓢箪作品が一杯の風戸邸

会食が一段落した後、CWA運営委員の石井崇子さん（救急医療センター看護局長）が東日本大震災時に現地に派遣された医療チームの活動をパワーポイントで説明。現地の映像に涙をぬぐう団員から、優しさと被災地への祈りが伝わってきました。

行程

- 9/23 上花輪歴史館、茂木本家美術館（野田市）
- 9/24 キッコーマン工場（野田市）、千葉ポートタワー（千葉市）
- 9/25 菅原ガラス（九十九里町）、ソムリエファーム（山武市）
城西国際大学（東金市）
- 9/26 瓢箪工芸家：風戸家（茂原市）、大多喜城（大多喜町）ほか
- 9/27 意見交換会＜生涯学習センター＞（千葉市）

団員

Barbara Baker	Castle Rock Peterwell Lakes Association会長 Juneau郡 観光局専務取締役
Barbara Rothwell	ひょうたんアーティスト 元州職員 コンピュータープログラミンク指導主事
Kimiko Miyazaki	不動産関係経営者

Wisconsin-Chiba Inc.グループ

Wisconsin-Chiba Inc.グループは、9月24日（月）から26日（水）までに各企業等を視察し、更に27日（木）は、文化・芸術グループに合流、千葉県立成田国際高校を訪問しました。

今回の訪問では、Wisconsin-Chiba Inc.（ウイスコンシン・千葉委員会）のメンバーの一人が、直前に来られなくなったこと等もありましたが、独自の日程で視察を行いました。

ウイスコンシン州では、キッコーマン（株）の工場が早い時期から操業していることもあり、同社の野田本社、工場を始め、野田市内での訪問先では、関心が高い様子でした。また、柏の葉スマートシティや植物工場、幕張メッセやウイスコンシン友好広場、ビール工場では、ウイスコンシン州との関係もあることから、熱心に視察をしていました。特に、植物工場については、ミルウォーキーの市街地等で、今後、可能性があると考えている様子でした。

なお、日程の合間には、ウイスコンシン・千葉委員会の理事の立場で、友好使節団の交流分野について、意見交換の場を持つことが出来たので、来年度に向けて、良い交流の場となりました。



キッコーマン工場訪問



柏の葉スマートシティについて視察



ウイスコンシン友好広場にて



千葉大学植物工場を視察



幕張メッセにおいて記念撮影

行程

9/23	上花輪歴史館、茂木本家美術館	（野田市）
9/24	キッコーマン工場・国際食文化研究センター 旧茂木佐郎（市民会館）、野田市郷土博物館	（野田市）
9/25	柏の葉スマートシティ（三井不動産） UDCK (Urban Design Center Kashiwa-no-ha) 千葉大学（植物工場）	（柏市） （柏市）
9/26	幕張メッセ・ウイスコンシン友好広場 サッポロビール千葉工場	（千葉市） （船橋市）

団員

Sharon Durtka	Wisconsin-Chiba Inc.副委員長 友好使節団団長
Alexander Durtka	Wisconsin-Chiba Inc.理事

ホストファミリーを体験して

ホストファミリーのうち二家族から寄稿していただきましたのでご紹介します。

野田市 古谷 陽子 さん



エリックさんと古谷ご夫妻（ウェルカムパーティ）

ホストファミリーの募集を野田市報で知り、すぐに申込みました。私も夫も学生時代に受け入れをしていただいた経験があり、機会があったらやってみようと普段から話をしていました。

受け入れが決まり、ゲストのエリックがやってくるまではあっという間でした。不安を抱えての初日でしたが事前にEメールを交わしていたのですぐに打ち解けることができました。エリックは食事もすすんで和食を選び、私たちのいつも通りの生活に自らを合わせることを望みました。その中でも、彼が大好きになったキリンビールを用意し、每晚遅くまで夫と3人でおしゃべりをしたのは、お互いの理解を深められたとてもいい時間でした。

3日目の晩はホストファミリーの仲間たちでポットラックパーティを開きました。ウィスコンシン州や野田市の文化に関するクイズではジェスチャーを使うものもあり、みんなで大いに笑いました。

瞬間に過ぎた5日間でしたが、あんなことも話したかった、こんなこともしてあげたかったという思いが残りました。その後もインターネットでお互いの近況を確認めたりしていますが、まだ交流は始まったばかりだなあと感じます。いつかエリックに会いにミルウォーキーまで行くのが家族の目標になりました。このような経験をさせていただき心から感謝しています。ありがとうございました。



最後の夕食はエリックさんの希望でカレーライス

長南町 中村 尚子さん



女性のつばさメンバーと笠森観音にて（中央左中村さん）

かなりハードであった視察や交流プログラムにも、積極的に参加される姿、ユーモアとウイットに富んだ楽しい会話等々、彼女から学ぶことは数多くありました。そして、私達夫婦の拙い英語にも丁寧に耳を傾けて下さり、どんな場面でも家族の様に関わって下さった彼女のセンスある対応に、心から感謝申し上げます。

来日前は不安ばかりで、ドキドキしながら成田空港に向かいましたが、お見送りする時はまるで家族を送り出すような気持ちでした。プログラムに関わってくださった皆様のおかげで、ホストファミリーとして、心から楽しめる体験が出来たと思っています。

9月22日の夕刻、空港でお迎えのご挨拶をさせて戴いた、バーバラ・ベイカーさんは、一昨年初めて訪れたウィスコンシン州の広大で豊かな大地を思い起こさせて下さる様な、おおらかで優しい女性でした。

長南町の築160年の我が家での二泊三日の滞在中、決して快適とは言えない住環境にも常に笑顔を決やらず、お出した食事も残さず食べて下さり、ホストファミリーとしてこれ以上幸せなことはありませんでした。



大多喜城にて武者姿のバーバラさん（左）

ウィスコンシン州 からの報告



キックマン・ウィスコンシン工場長
辻 亮平さん

私の同僚の車に娘が乗り合わせていたある日の出来事。

車中のFMラジオから流れる音楽に、思わず娘が反応して訊いたそうだ。

「あの一、この曲は誰のでしたっけ？」

「スティービー・ワンダーよ」

「あっ、そうそう、この前コンサート行ったんですよ」

「エーっ!!!」

これは、娘がアメリカに来てまだ1ヶ月くらいしか経っていない頃のエピソードだ。事情があって、ウィスコンシンの現地校の先生に送迎をしばらくお願いしていたのだが、まだろくに英語も話せない娘のことを随分と気に入ってくれ、Summer Festのコンサートに連れて行ってくれたのだ。これが、私とSummer Festの初めての出会いであった。

Summer Festは、Milwaukeeのミシガン湖沿いにある専用の会場で毎年催される音楽祭だ。7月4日の独立記念日を含め11日間、11のステージを用い700以上のバンドが参加、来場者は80万から100万人にもおよび、世界一の規模であると認定が1999年にギネスにより成されている。その歴史は古く、1968年にウィスコンシン州の35箇所で開催されたことに遡る。1970年にミルウォーキーの会場に統一されてから現在まで続いている。ブルース、ロック、カントリー、ブルーグラス、ジャズにヒップホップと、演奏される音楽は多彩だ。これまで参加したミュージシャンも、ボブ・ディラン、ポール・サイモン、エリック・クラプトン、ウィットニー・ヒューストン、ボン・ジョビなど、数え切れない有名どころが名を連ねている。かと思うと、路地の小さなわか作りの会場では、南米の民族音楽を演奏していたりする。そして、その周りではお客さんが好き勝手に踊っている。こんなコントラストもまた、おもしろい。



Summer Festの行われるHenry Maier Festival Parkの入口

広い会場をゴンドラに乗って移動も。上からの景色も圧巻もめごとが起こるわけでもなく、極めて秩序も保たれている。ここは、音楽を楽しむことに留まらず、仲間が集まって話に花を咲かせる場でもあり、家族が休日を楽しむところでもあるようだ。

アメリカ人従業員と他愛ない世間話などする時、よく出てくるのはウィスコンシンの長い冬が終わり、夏をどのように楽しむかという話題だ。工場のあるWalworthからMilwaukeeまでは車で片道1時間程度の近場であるが、「Summer Festに泊りがけで数日行ってくるよ」、と楽しそうに話してくれるのは一人や二人ではない。みんなが心待ちにしているお祭り、それがSummer Festなのだろう。

あとがき

ウィスコンシン州の南部、ウォールワースにある工場に赴任してより5年余りが経過致しました。現地でSummer Festの話が出るようになると夏の訪れを実感できます。こんな感覚を皆さんにお伝えすることが出来たらと思い、ウィスコンシン州からの報告の題材と致しました。少しでも、ウィスコンシンの夏の躍動感をお伝え出来たとしたら幸いです。



大小様々なコンサート会場があり、ここでは飲食も楽しめる

県立柏高校生の コンコルディア大学 海外研修報告



千葉県立柏高等学校長

吉開 潔 さん

はじめに



慣れない道具を手にミシガン湖で生物を採集

千葉県立柏高校は、東葛飾地域で唯一理数科を有する高校で、平成16年度から5年間、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、平成23年度から5年間の再指定を受けました。SSHの学校は、次代の理数科学者を育成するための高度な教育を推進することを目的とした調査研究に取り組んでいます。今回の指定で本校は、国際的に活躍する人材を育成することを目的として、ウィスコンシン州ミルウォーキー近くのミシガン湖畔にあるコンコルディア大学ウィスコンシン校での研修をその柱の一つに据えています。今年度は、2年生32名（普通科8名、理数科24名）が、7月20日から31日の12日間のプログラムに参加しました。

研修のあらまし

本校では、手賀沼の環境調査を15年以上行っています。この研修の主目的は、小さな手賀沼と五大湖の一つであるミシガン湖の環境を比較することです。そのため、ミシガン湖岸や周辺の川や沼、さらに車で2時間程離れたシャワノ湖などでの生物採集や水質検査に多くの時間を費やしました。つま先から胸までをすっぽり覆う「胴長」を着用して、慣れない道具に悪戦苦闘しつつも、多くの生物を採集し、ウィスコンシン州の雄大な自然を、文字通り肌で感じる研修でした。研修の初めにおいて、生徒たちは班ごとに、日本で用意した手賀沼に関するプレゼンテーションを大学の先生方相手に行い、ミシガン湖の水質や環境を調査した後に両者を比較したプレゼンを行います。この1週間ほどで、生徒の英語力や表現力は飛躍的に向上し、我々引率者のみならず、大学の先生方からも賞賛をいただきました。参加生徒からは、ミシガン湖畔の豊かな自然に対する感動とともに、「英語ができないと実習のやり方が解らない辛さとコミュニケーションできたときの嬉しさを実感した」、「英語の大切さを再認識した」といった英語によるコミュニケーションに関する声も多く聞かれました。

研修の中心となったコンコルディア大学の環境保全センターは、消費電力のすべてを太陽光、風力、地熱の再生可能エネルギーでまかなっており、壁や机に再生紙を使っているなど、約170ものエコ技術が使われていました。また、見学に訪れたブルースカイ風力発電所は、広大な土地に見上げれば首が痛くなるほどの風車が、100基近く並んでおり、生徒たちもスケールの大きさに圧倒された様子で、環境保全に対するアメリカの先進的な取組を体験できたことは、今後の生徒の研究に大きな影響を与えるものでした。



風力発電所を見学

研修で得たもの



交流を深めたキャンプファイヤー

※詳しくは県立柏高等学校ホームページの理数科ニュースをご覧ください。
<http://www.chiba-c.ed.jp/kashiwa-h/>

言葉も文化も日本とは全く異なる環境の中で、科学的にも高度な内容を学ぶことができるのは、本当に貴重な経験です。言葉だけではなく、食べ物、習慣、風景など、生活の中で体験する一つ一つが日本とは異なり、生徒は驚いたり戸惑ったりしていました。生徒たちにとって、英語力の不足を痛感させられた12日間でしたが、同時に、研修をやり遂げたという達成感や自信も日本に持ち帰ったようです。「色々大変なこともあったけど、全て普段はできない初めての体験ばかりだからもっと楽しまなきゃ、とポジティブに考えることができ、たくさんのことを学びました」、「帰りの空港に向かうバスの中で、私は、今そこから見える全てのものを目に焼き付けておきたい、今まで以上に外を見ていました」、など研修を終えた生徒たちの感想が、そのことを物語っています。

ウィスコンシン州出身のALTを紹介します！ 県立高校には多くのウィスコンシン州出身のALTがいます。

ALTとは、Assistant Language Teacherの略で、外国語を母国語とする外国語指導助手をいいます。

現在県内の小・中・高等学校には、英語発音や国際理解教育の向上のため多くのALTが配置されていますが、今回県立高校にいるウィスコンシン州出身のALTを紹介します。



後列左から

Brennan Alcott(成田国際高校) / Fred Lauer (東金高校) / Cory Swanson (柏井高校) / Ryan Haugen (匝瑳高校) / Andrew Bryner (流山おおたかの森高校) / David Reed (君津高校) / Benjamin Van Orsdol (八街高校) / David Pelikan (安房高校)

前列左から

Lauren Rushford (匝瑳高校) / Rebecca Hafermann (流山おおたかの森高校) / Kate Johnson (東金高校) / Akane Edwards (土気高校・成東高校) / Kristen Roth (幕張総合高校) / James Weber (松戸国際高校・薬園台高校) / Megan Burke (教育庁教育振興部指導課) / Alexander Foxcroft-Knop (松戸国際高校)

※ () 中は所属名

来て！見て！楽しもう！ 「国際フェスタCHIBA」

国際フェスタCHIBAが、来る12月2日(日)開催され、CWAは今年も出展します。時間は10時から16時まで、場所は千葉県青少年女性会館(最寄駅:千葉都市モノレール「スポーツセンター駅」)です。

今年は、9月に来葉したウィスコンシン州からの友好使節団の交流の様子を紹介するほか、来場者の皆さんに楽しんでいただけるような企画を用意しています。

多くの方のご来場をお待ちしています。



2011年国際フェスタCHIBAのCWAブースの様子

CWA 入会のご案内

【会費】

- 1 個人会員 2,000円
- 2 団体会員 10,000円
- 3 賛助会員 20,000円(1口)(※何口でも可)

【事業内容】

- 1 ウィスコンシン州との姉妹交流事業(派遣・受入)
- 2 会員等交流事業
- 3 ウィスコンシン州に関する情報収集とその発信
- 4 地域の国際交流事業への参加

【特典】

- ☆ 会報(CWA NEWS)の発行
- ☆ ウィスコンシン州との交流イベントの企画運営に参加
- ☆ 交流イベントのご案内
- ☆ ウィスコンシン州内の団体等との交流をバックアップ

【会費納入方法】

銀行振込(ゆうちょ銀行・千葉銀行)または郵便振替
※詳しくは下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

電話 043-223-2398(千葉県総合企画部国際課)

【編集後記】

9月に来葉したウィスコンシン州友好使節団は県内各地の多くの方々に多くの思い出を残しました。そして、使節団員の方々にとってもそれぞれ多くの貴重な体験をしたように思います。

今回のことがきっかけとなって交流の輪が広がることになれば、CWAとしても望外の喜びです。

最後に、今回の交流事業を支えてくださった多くの方々に感謝申し上げます。

発行所: 千葉ウィスコンシン協会

発行人: 森山茂男 編集: 広報部会

<http://www.chiba-wisconsin.jp/>

〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14階

(財)ちば国際コンベンションビューロー内

*電話でのお問い合わせ ☎043-223-2394(千葉県国際課)